

《担当者名》○幸村 近 藏満保宏 江本美穂

【概要】

生体の機能を把握する様々な生理機能検査の理解を深化するために、生体器官や疾患に関する知識を身に付けるとともに、生体機能検査結果の解釈や新しい検査法、解析法の知識、様々な生理機能研究について学ぶ。また生体の機能を担う分子である蛋白質の影響を受ける様々な生化学的検査の理解を深化するために、様々な疾患における生体内蛋白質やその他の分子の動態に関する知識や生化学的検査結果の解釈や新しい検査法、解析法に関する知識、様々な生化学研究について学ぶ。これらの研究により論理的思考を修得することを目的とする。

【学修目標】

- 1) 循環器系、呼吸器系、神経系・筋肉系・感覚器系など、生体の各器官系が保持する特性を説明できる。
- 2) 循環器系、呼吸器系、神経系・筋肉系・感覚器系などに関連する生体機能検査と解析技術を臨床で応用し、正しく解釈できる能力を身につける。また新たな検査法や解析法の開発を行えるような能力の下地を身につける。
- 3) 生体機能解析法の基礎から最先端の分析法や画像化研究について理解する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	循環器系	循環器系生理機能検査	幸村 近
2	循環器系	関連分野の最新研究	幸村 近
3	呼吸器系	呼吸器系生理機能検査	幸村 近
4	呼吸器系	関連分野の最新研究	幸村 近
5	神経系・筋肉系・感覚器系	神経系・筋肉系・感覚器系生理機能検査	幸村 近
6	神経系・筋肉系・感覚器系	関連分野の最新研究	幸村 近
7	生体機能分子	細胞骨格に関連する分子	藏満保宏
8	生体機能分子	細胞内シグナル伝達に関連する分子	藏満保宏
9	生体機能分子	サイトカインとホルモン	藏満保宏
10	生体機能分子	免疫に関連する分子	藏満保宏
11	生体機能分子	癌細胞に関連する分子	藏満保宏
12	生体機能分子	代謝に関連する分子	藏満保宏
13	生体機能分子	・内因性抗酸化物質 ・外因性抗酸化物質	江本美穂
14	生体機能分子	・酵素的抗酸化物質 ・非酵素的抗酸化物質	江本美穂
15	生体機能分子イメージング	・MRI ・CT ・EPR	江本美穂

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

筆記試験 100%

【評価基準】

生理機能検査、生体機能分子について理解し、適切な説明ができる者に対して単位を付与し、学修目標に記載する能力の達成度に応じて、優（80点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）の評価を与える。

【教科書】

配布資料(論文)

【備考】

ライブ配信による授業では、Google Formを利用して授業時間中にその場で学生の理解度を把握する。

オンデマンド型授業では、Google Formを利用して学習課題の提示と質疑応答の機会を確保する。

【学修の準備】

次回の授業内容について、調べておくこと（30分）

復習は、配布資料を活用し学習を深めること（30分）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

(DP1)臨床検査学研究を実践するための倫理観を身につけていること。

(DP2)臨床検査学の教育者・研究者として、深い学識を身につけていること。

(DP3)臨床検査学の高度な研究能力と教育的指導力を身につけていること。

(DP4)国内外の保健・医療や社会の動向を把握し、修得した能力を社会へと還元できる能力を身につけていること。

【実務経験】

幸村 近（医師）、藏満保宏（医師）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での実務経験を活かし、生体機能解析学の講義を行う。